



環境教育・6次産業化を通じた地域活性化の取組

ひがしおうみし

魚のゆりかご水田協議会（滋賀県東近江市）

- 本地域（東近江市栗見出在家町）では、地域に元気を取り戻すため、平成18年度から県が推進する「魚のゆりかご水田プロジェクト」と「農地・水・環境保全向上対策（平成18年度はモデル事業）」を活用し、集落全体が一致団結して取組。
- 集落の人だけで活動してもマンネリ化するため、水田オーナー制度を導入し、魚のゆりかご水田米を積極的にPRするとともに、田植え体験、生き物観察会、稲刈り体験等のイベントを開催。
- さらに、魚のゆりかご水田米の米粉や地元食材を使った料理講習会の開催や学校給食等を通じた食育、県外中学生の教育旅行の受け入れ、地元酒造メーカーと連携した酒米と日本酒造り等の地域活性化を図る様々な活動を展開。

【地区概要】

- ・取組面積 64.36ha
(田60.17ha、畑4.19ha)
- ・資源量 水路13km、農道4km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、
自治会、農事組合法人等
- ・交付金 約5百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- S40年代からの琵琶湖総合開発により湖面の水位が下がり、同時期に実施された基盤整備により水田と排水路の段差が出現。琵琶湖のフナやナマズ等が田んぼへ自由に出入りすることができなくなった
- 滋賀県では、かつてのように琵琶湖と水田を湖魚が行き来でき、産卵・生育できる水田環境を取り戻す「魚のゆりかご水田プロジェクト」をH13から推進
- 集落に元気を取り戻すため、集落全体が一致団結し、「魚のゆりかご水田」と「農地・水・環境保全向上対策」に取り組んだ



ほ場整備後の段差

取組内容

【魚のゆりかご水田を中心とした活動の展開】

- 減農薬・減化学肥料等の環境にこだわり、県が認証する「魚のゆりかご水田米」の栽培を集落ぐるみで実施(H29:30ha)し、良品質の米生産を実践
- 集落全戸に呼びかけ、春に水田魚道を設置【多面支払の活動】
- H23から水田オーナー制度を導入(1区画100㎡/3万円)する等消費者と積極的に交流
- 魚のゆりかご水田での「田植え体験」、「生き物観察会」、「稲刈り体験」をイベント化(水田オーナーは参加費無料)【多面支払の活動】
※H28、H29の観察会参加者は200人以上
- コミュニティセンターと連携し、魚のゆりかご水田米の米粉や地元食材を使った料理講習会を毎年実施
- H26から魚のゆりかご水田の取り組み時期に合わせて教育旅行の受け入れを実施(これまで千葉県と神奈川県の中学生を受け入れ)

取組の効果

- 集落全体が一致団結し、魚のゆりかご水田を中心とした様々な活動を多面的機能支払交付金を活用しながら取り組んだ結果、地域が次のように変わった
- 集落内外から参加者を募り、集落全体で取り組めるイベントができたため、地域が活性化。また、地域外の水田オーナーや活動参加者、企業等と交流・人脈が拡大
- 取組前は対外的にアピールできるものなかったが、良品質の「魚のゆりかご水田米」や独自の酒米を栽培し、地元酒造メーカーと造った日本酒など、集落の特産品を創出



集落総出で魚道を設置



生き物観察会



集落営農やNPOと連携した水田地帯における取組

しらおうようにおのかい

おうみはちまんし

白王町鳩の会（滋賀県近江八幡市）

- 多面的機能支払交付金の活動組織と集落営農の組織とが連携し、施設の保安全管理、濁水防止・節水管理、景観保全等の活動を効率的に実施。また、これら活動により良好に保全されている農村環境を活用して、農産物のブランド化を推進。
- また、水田魚道の設置等の農村環境保全活動については、NPOと連携して実施。これにより、活動組織にとっては、農家だけでは思いつかない知恵が得られるほか、NPOから情報発信が行われるため、非常に効果的。
- 地域において、「自らの手で資源を保全する」という意識が強まったことが最大の効果。

【地区概要】

- ・取組面積 59ha（田 56ha，畑 3ha）
- ・対象施設
開水路 7.0km、パイプライン 4.0km、
農道 5.0km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、営農組合、自治会、
女性会、子供会、土地改良区、その他
- ・交付金 約2百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

主な取組

- ・湖上の飛地「権座」の農地では、田船を利用した稲作や水田魚道設置、景観保全活動、さらには良好に保全されている農村景観を活かした農産物のブランド化に取り組む。
- ・地域資源を保全する共同活動と集落営農等の環境こだわり農産物の栽培が相乗効果を発揮し、地域が活性化。



NPOと連携し水田魚道を設置



景観形成活動



環境こだわり酒米の栽培



環境学習の実施



地域農業と農事組合法人を支える共同活動の取組

うちの

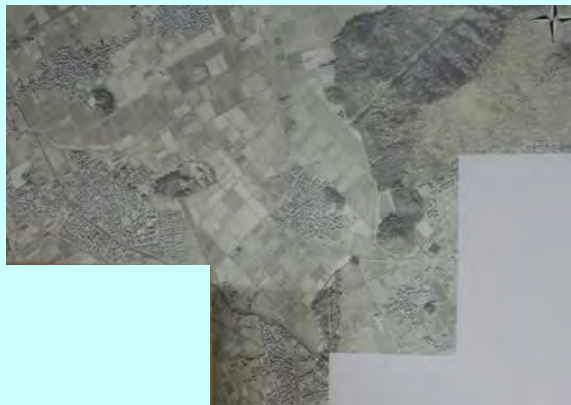
おうみはちまんし

内野環境保全会（滋賀県近江八幡市）

- 平成5年度から開始した県営担い手育成基盤整備事業の担い手組織として設立された内野営農組合は、隣接する4集落（旧老蘇地区）350ha規模の各集落特定農業法人の共同体制で地域発展を目指す。
- 内野集落では、この農事組合法人の取り組みを側面から支援するため、平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策」に取り組み、イノシシ被害を防ぐための防護柵の設置や地域住民の交流を促進するホタルの観察会を地域のコミュニティセンター及び隣接集落との共同で開催。

活動開始前の状況や課題

- 本地区は、平成5年度から基盤整備事業を実施し、内野営農組合を中心とした担い手に農地集積を進めてきた
- 担い手に一層営農に専念してもらい、地域の発展を望む一方、従来から地域で行われてきた水路の草刈りや泥上げだけでなく、施設の補修や農村環境保全の取り組みの必要性が高まった



基盤整備事業実施後の内野地区

取組内容

- イノシシによる被害が増えてきたため、平成25年度に集落全戸に呼びかけ、共同活動で1,300mの防護柵を2日間で設置。毎年巡回管理を行い、補修を実施
- 山裾の段々畑の法面の芝生化による管理作業の軽減に成功した地区を視察し、指導を受け、本地区の草刈りが大変な3m近くある法面に芝生を植栽（H28～H29）
- 平成25年度からホタルの鑑賞会を開催。平成27年度からは同様の取り組みを行う地域のコミュニティセンターと隣接する集落との共催で実施



イノシシ防護柵

取組の効果

- 防護柵を設置後、1度もイノシシによる被害が発生しなくなり、担い手が安心して営農に取り組める環境が整った
- 草刈りが大変な法面の芝生が定着すれば、管理作業が大幅に軽減される
- ホタルの鑑賞会を共催で実施することになったことで、内容の充実（専門家による1時間の講義を追加）、安全性の向上（ロウソーラーシステムの利用）、参加者の増加（単独実施：数十人程度→共催：約200人）が図られた

【内野営農組合の取り組み】



びわマンゴー



花菜の契約栽培



大豆の契約栽培



水稻の湛水直播

【地区概要】多面的機能支払交付金

- ・取組面積 118.26ha
(田108.88ha、畑9.38ha)
- ・資源量 水路27km、農道9km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、農事組合法人、子供会等
- ・交付金 約4百万円（H29）
 - 農地維持支払
 - 資源向上支払（共同）



土地改良区が事務局となり行政界が異なる3集落で共同活動を展開

だいなか

おうみはちまんし

ひがしおうみし

大中環境保全の会（滋賀県近江八幡市・東近江市）

- 昭和30～40年代の干拓により造成され、旧3市町（現在は2市）に分界された3集落が、干拓地域内の農業用施設を管理する土地改良区が事務局となることで、平成18年度のモデル事業から「農地・水・環境保全向上対策」に取り組み、共同活動を開始。
- 土地改良区が事務局となって各集落との総合調整を行ったことで、本交付金を活用した農業用施設の効率的な維持管理や補修等が行われるようになり、さらに、各集落の自治会と連携した活動も活発化。

【地区概要】

- ・取組面積 869.79ha
（田765.9ha、畑62.49ha、草地41.4ha）
- ・資源量 水路113.8km、農道61.2km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、
農事組合法人、子供会等
- ・交付金 約28百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同）

活動開始前の状況や課題

- 昭和30～40年代の干拓により造成され、旧3市町に分界された3集落の自治会と営農組合等がそれぞれ個別に活動
- 末端農業関連施設の老朽化、高齢化による離農、担い手不足等に対応するため、3集落が協力して営農及び地域の課題に取り組む必要性が高まる
- 3集落の唯一の共同組織である土地改良区が事務局となり、農地・水・環境保全向上対策の取組を開始



大中の湖地区 位置図

取組内容

- 水田からの排水（濁水）管理と水質モニタリングの実施【県の必須取組項目】
- 土地改良区が試行し効果のあった排水路に大量発生する藻草対策（防草シートによる遮光）を共同活動として地域に普及（1セット50mで資材費は約8万円）
- 地域の保育園と連携し、①景観形成のためのヒマワリの植栽（全長約300m）、②野菜づくり体験、③生き物調査を実施



防草シートによる排水路の遮光

取組の効果

- 取組開始時から継続して水田からの排水（濁水）管理に取り組み、濁度等をモニタリングした結果、着実に濁度が低下し、水田排水の水質改善がなされた
- 従来、土地改良区が行っていた異常気象時の見回りと非かんがい期の防火用水としての通水操作を各集落に分担したことにより、施設異常の早期発見や災害等への対応体制が整い、地域住民の防災意識が向上
- 防草シートで遮光した排水路では、藻草類がほとんど発生しなくなり、重労働の除去作業から解放
⇒ 受益地全体で、毎年2tダンプ10台程度の処分作業が大幅に軽減
- 共同活動に取り組む前よりも、各集落の自治会活動や3集落の交流が活発化し、地域の雰囲気と様々な共同活動に対する協力意識が向上



希少種保全の推進

都市的地域

おおはらさと

きょうとし

大原里づくりトライアングル（京都府京都市）

- 本地域は、歴史・文化資源と豊かな自然環境が調和した地域であるが、耕作されていない農地が増え、風情ある農村景観が失われつつあった。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地元の小中学校と連携したオオムラサキの保護活動など、貴重な地域資源と自然の豊かさを知り、後世に残すための活動を積極的に展開。
- 本取組により、オオムラサキや水生生物の生息数が増加し、地域住民の環境保全に対する意識も向上。また、活動を通じて地域コミュニティが徐々に回復。

【地区概要】

- ・取組面積 48ha（田 46ha、畑 2ha）
- ・資源量 開水路13.0km、農道2.0km
- ・主な構成員 農業者、NPO、土地改良区
- ・交付金 約4百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、三千院などの歴史・文化資源と豊かな自然環境が調和した豊かな田園風景を有する地域。
- しかし、農業者の高齢化や混住化等により耕作されていない農地が増加するなど、風情ある農村景観が喪失。
- 「農」を核とした地域づくりを目指そうと、平成11年以降農業者を中心に各種組織を設立し、加工・直売等の6次産業化や基盤整備事業を導入。
- また、10年以上前に、本地域ではほとんど見られなくなったオオムラサキの死骸を小学生が発見したことがきっかけで、農業だけでなく景観・環境保全等の課題解決にも取り組み。



大原の景観

取組内容

- 土地改良区、農業団体及び非農業者主体のNPO法人のトライアングル体制を核とした活動組織を設立。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、農地・水路等の地域資源の保全活動を地域ぐるみで実施。
- 専門家の指導の下、地元の小中学校と連携し、希少種オオムラサキの保護活動（累代飼育や放蝶会、クヌギの育生等）や水生生物調査なども実施。
- これらの活動を継続し、貴重な地域資源と自然の豊かさを知り、後世に継承。



水生生物調査の様子

取組の効果

- 専用の網室に1,000頭程度の蝶を育生・保護し、毎年放蝶。近年、スポット的に蝶が見られる場所が増加。

〔H29.6月放蝶会 参加者80名程度 50頭以上放蝶〕



- 地域住民の水質保全に対する意識が向上したほか、水生生物の種類が増加。

〔10年前の調査 水生生物27種類
H27.7月の調査 水生生物40種類
※参加者40名程度〕

- これらの取組を通じ、農村環境が保全されるとともに、希薄になりかけていた地域コミュニティが徐々に復活。



コウノトリに配慮した農法の推進による高付加価値製品の拡大

とよおかしいずしちょう

ひぼこの大地を守る会（兵庫県豊岡市出石町）

- 本地域は、兵庫県北部の但馬地域に位置する水田地帯。平成17年9月に国指定の特別天然記念物コウノトリが自然放鳥され、人里で野生復帰を目指す取組が行われていることから、本地区においても安全・安心な米づくりをモットーに環境創造型農業※1を実践し、「コウノトリ育む農法」※2も積極的に取り組んでいる。
- 農地・水保全管理支払交付金（第2期対策）のスタートをきっかけに、同一土地改良区管内に位置する6集落がまとまって広域組織としたことで、共同体制を強化するとともに事務負担の軽減を図った。また、施設の計画的な点検・更新に取り組むことが可能となり、施設の長寿命化に繋がっている。

※1 農業の自然循環機能の維持増進を図り、環境への負荷を軽減するため、土づくりを基本に、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を慣行の30%以上低減する生産方式【兵庫県の独自取組】

※2 おいしい農産物と多様な生きものを育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法（安全な農産物と生きものを同時に育む農法）【但馬地域独自の取組み】

【地区概要】

- ・取組面積164ha（田161ha、畑4ha）
- ・資源量 開水路37.7km、ポンプ5箇所
パイプライン15.8km、
農道29.5km、ため池3箇所
- ・主な構成員
土地改良区、自治会、営農組合、
子供会等
- ・交付金 約15百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 農地・水・環境保全向上対策（第1期対策）時から各集落それぞれに農業者・自治会・非農業者団体等により活動し、各集落の農地・水路・農道の保全に努めていたが、補修費用のかかるポンプ等の基幹施設の老朽化対策や交付金の申請、実績報告等の事務負担軽減が共通の課題。
- 平成24年の第2期対策開始時に、同一土地改良区内に位置する6集落がまとまって広域組織としてスタート。



共同活動の実施状況

取組内容

- 活動組織の広域化に伴い、従前の各活動組織（集落）を基本とした代表者会議と事務局を設置。事務局は申請、報告事務及び広域活動を担当し、集落は共同活動に集中できるよう役割を分担。
- 約半数の73haで環境創造型農業による安全で安心な米づくりに取組み、その内10haで特に減農薬や早期湛水等を行う「コウノトリ育む農法」による「コウノトリ育むお米」を栽培。また、地域の小学校や子供会と生き物調査を実施し、豊かな環境を確認する機会を提供。



「コウノトリ育むお米」の 田植え・生き物調査

取組の効果

- 「コウノトリ育む農法」を実施することで、コウノトリが頻繁に飛来。安心・安全で環境に優しい米づくりの重要性を再認識し、互いに共同活動や環境保全活動に切磋琢磨して取り組むことにより、各集落間及び世代間の交流も深まり、地域活性化が促進。
- 従前の小規模な活動では実施できなかった環境創造型農業に不可欠な用水ポンプ5箇所の保全も代表者会議で年次計画を策定し、点検診断を行い、順次更新補修を実施。長寿命化対策の実施により、ポンプ等施設の故障や不具合が減少し、維持管理労力の手間と断水等の恐れが解消。



飛来したコウノトリ

ポンプの更新状況



地域の特産品を利用した地域活性化(6次産業化)

こさじ こうかし
小佐治環境保全部会（滋賀県甲賀市）

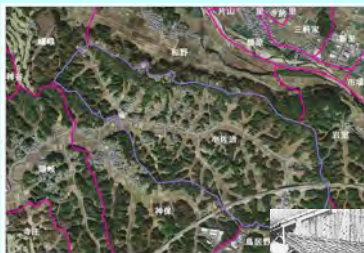
- 本地域は、滋賀県の東南部に位置し、鈴鹿山脈のふもとにある中山間地域である。
- 昭和の終わり頃まで最高級のもち米として皇室に献上されていた「しがはぶたえもち滋賀羽二重糯」が古琵琶湖層の土壌を生かして多く作付されていたが、この品種は栽培が難しいことなどから栽培する農家が減少してきた。
- 活動組織が草刈り等の農地維持に係る活動を行うほか、耕作放棄地の有効利用として企業と連携した特産品の作付や様々な地域活動に取り組み、もちの加工・販売を行う「(有)甲賀もち工房」を中心に6次産業化を進め、集落、営農組織、学校等と密接に連携し地域の活性化が図られている。

【地区概要】

- ・取組面積 84ha（田84ha）
- ・資源量 開水路 32.0 km、農道 17.0 km
ため池 5箇所
- ・主な構成員
自治会、子供会、老人クラブ等
- ・交付金 約3百万円(H29)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、滋賀県の東南部に位置し、鈴鹿山脈のふもとにある中山間地域であり、少子高齢化・農家離れが深刻な状態
- 昭和の終わり頃まで最高級のもち米として皇室に献上されていた「滋賀羽二重糯」が多く作付されていたが、この品種は栽培が難しいことから栽培する農家が減少



本取組の対象地域



昭和初期のもち宣伝隊

取組内容

- 小佐治もちの知名度を上げるため「甲賀もちふる里まつり」に参画



まつりでの餅つき実演

- 活動組織が耕作放棄地の有効利用として企業と連携した特産品の作付に取り組み、営農組織がもちに使用する「よもぎ」を栽培している。また、収穫は高齢者グループに手伝ってもらうなど地域一体の取組を実施
- 小中学校への食農教育、社会見学の受入、生物観察会等の地域活動を通して、世代を超えた交流を実施

取組の効果

- 耕作放棄地を有効利用することにより、遊休農地の発生を防止するとともに、よもぎの生産量が増え、「(有)甲賀もち工房」を中心としたもち加工が進むとともに、いろいろな地域活動が行われることで、女性や老人の雇用対策や生きがいとなっている
- 「甲賀もちふる里まつり」には、地元住民約80人がスタッフとなり、子供からお年寄りまで参加し、集落のコミュニティの場となっている
- 活動組織の地域活動により、豊かな生き物を育む水田づくりや環境こだわり農業の積極的な取組がより認識され、安心安全な農産物を提供



よもぎの収穫



地域外の参加者を積極的に呼び込んだ取組の発展

と やすし せせらぎの郷（滋賀県野洲市）

- 本地域（野洲市須原地内）集落内の高齢化が進み、担い手が年々減少する中、地域の農業と環境を守る集落ぐるみで一致団結できる新たな取組が必要だった。
- 「農地・水・環境保全向上対策」と「魚のゆりかご水田プロジェクト（田んぼと琵琶湖との連続性を保つために排水路に魚道を設置し、在来魚を保全する取組）」を活用し、琵琶湖の生きものと人が共存し、持続可能な農業を目指す取組を展開。
- 「魚のゆりかご水田」でのイベント（田植え体験、生き物観察会、稲刈り体験）、水田オーナー、地域サポーター、大学、行政等の地域外の参加者との交流を積極的に行い、意見や要望等を聞きながら、活動の工夫や「魚のゆりかご水田米」のPR・販売を実施。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、昭和47年から始まったほ場整備が行われる前は、田舟を使って農業を営むクリーク地帯
- ほ場整備によりクリークは埋められ、生産性と利便性が向上した反面、普段の暮らしの中で川や琵琶湖との関わりが希薄となり、身近な生きものの価値や水辺環境の良さに気付くことが困難に
- 集落内も高齢化が進み、担い手が年々減少する中で、琵琶湖と人々が身近だった関係をもう一度取り戻し、地域の農業と環境を守る新たな集落ぐるみの取組が必要



ほ場整備前の須原集落内のクリークと田舟

取組内容

- 集落が一丸となって取り組みを始めた「魚のゆりかご水田」を持続可能な活動とするため、「水田オーナー制度」を導入し、田植え体験、生き物観察会、稲刈りの体験イベントを実施
- 大学のインターンシップの受け入れ、大学への出前講座など、教育機関と連携した環境学習を実施
- 米のブランド化や地酒の製造販売による6次産業化、JAが行う東京での収穫祭と連携し、地元農産物のPR活動を実施

【平成29年度の活動実績】

- ・田植え体験（80名参加）、生き物の観察会（210名参加）、稲刈り体験（100名参加）
- ・一部、無農薬、無化学肥料栽培の実施
- ・鮎寿司漬け体験（21名参加）
- ・東京の大学からゼミ合宿受入（15名）
- ・国内外から視察研修受入（12団体）
- ・「魚のゆりかご水田」活動動画をyoutube、HPに掲載 等

【地区概要】多面的機能支払交付金

- ・取組面積 46.48ha（田）
- ・資源量 水路5.0km、農道4.3km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、子供会、PTA等
- ・交付金 約2百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同）

取組の効果

- 「魚のゆりかご水田」を中心とした活動を集落内の人々だけでの農村環境保全活動に留めず、最初から「魚のゆりかご水田米」のPRや販売の仕方まで視野に入れながら取組を推進
- イベント等で集まった水田オーナーや地域サポーター、大学や有識者、行政等との交流を積極的に行い、意見や要望等を聞き、次に繋がるように工夫しながら活動を展開
 - 無名だった須原集落が、「せせらぎの郷」として平成23年度全国豊かなむらづくり表彰事業をはじめ、数々のコンクール等で受賞されるほどに地域が発展



HPでの「魚のゆりかご水田米」のPRと生き物観察会の様子



イベントや景観形成による地域のつながりの構築

都市的地域

さんがまき

たかつきし

三箇牧地区農空間保全協議会（大阪府高槻市）

- 当協議会は京都と大阪のほぼ中間、淀川平野に位置する水田を中心とした地域で活動に取り組んでいる。
- これまでも、地域機能増進事業をきっかけに、幹線水路の空き地を利用したポケットパークや緑道を整備する環境保全の活動に取り組んでいた。
- その後、農地・水（現在は多目的機能）の取組を契機として、レンゲやコスモスを活用した景観形成や地域交流イベント、小学校と連携した農業体験、他の活動組織との交流、これらを通じた地域の繋がりの醸成を、より深度化している。

【地区概要】

- ・取組面積 104ha（田100ha、畑 4ha）
- ・資源量 開水路34.5km、農道14.0km
- ・主な構成員
農業者、自治会、老人会、子供会、
小学校、高槻レンゲ振興会 等
- ・交付金 約3百万円（H29）
〔 農地維持支払 〕

地域の活動内容

- 地域の交流の場として、レンゲの里やコスモス栽培の場を一般開放することで、自然のふれあいを求めて訪れる人に好評。
- 環境保全活動として、春に「チューリップフェスタ」、秋には「緑化フェスタ」を毎年開催している。
- 自らのホームページにより地域の紹介を行っている。



農業用水路清掃



レンゲ祭



チューリップの植栽



地域を彩るコスモス

活動の広がり

- 大阪府内の他の活動組織と交流の場を設けることで、情報発信と入手を行い、関係者の意識向上に努めている。
- 小学校へ農業体験の場を提供することで、地元の子ども達に農業について関心を持ってもらう。



小学校連携による
農業体験



他の活動組織との
積極的な情報交換

活動の効果

- 地域の景観に関する意識が向上したことにより、ゴミの不法投棄が無くなった。
- 色々な取組において小学校と連携することで、子どもが参加する機会が増え、子ども達も元気になった。
- 今後は、子ども達が将来農家になってみたいと思えるような取組を行っていきたい。



緑化フェスタ



三箇牧ウォーク



花一杯運動



菜の花観察



かいぼりをきっかけとした地域の活性化

都市的地域

とみき

富木地区環境保全協議会（兵庫県加古川市）

- 平成19年度に市の助言で地域の話し合いを行い、ため池や水利施設の保全のために非農家を巻き込んだ地域ぐるみの活動を開始。
- 毎年実施している「かいぼり」や地域内の清掃活動には、自治会、子供会、小学校、大学、企業等の多様な団体が参加し、多くの人が農村環境に親しむ機会を提供。
- 実践的な活動に加え、近隣のため池管理者や他の活動組織との意見交換会や地元の大学生との交流会を実施し、新聞等のメディアを通じて地域に周知されることで地域住民の参加意欲を高めている。

【地区概要】

- 取組面積9.7ha（田9.5ha、畑0.2ha）
 - 資源量
水路4.1km、農道 1.5km、
ため池 2箇所
 - 主な構成員
農業者、土地改良区、自治会、子供会等
 - 交付金 約0.8百万円(R1)
- 農地維持支払
資源向上支払(共同・長寿命化)

活動前の状況や課題

- ため池等の管理は農業者が実施してきたが、都市化や高齢化により参加者が減少し、負担が重荷に。
- かいぼり等も実施していたが、地域の非農家の関心は低く、参加者は少数であった。
- 施設の老朽化も進行する中で、活動の資金が不足し、補修が出来ない状態であった。



- 地域でため池管理をはじめとした地域農業について話し合い、交付金をため池のゲート補修費や日当などの活動費に充当し、非農家も巻き込んだ地域ぐるみの活動を開始。



ため池の全景

取組内容

- 活動組織が中心となり、非農家や大学生も参加するかいぼりを毎年開催している。
- かいぼりでは、捕獲した魚の実食体験等を通じて、家族連れ等の非農家の参画を促進。



ため池の草刈り



ため池のかいぼり

- ため池における地域や学校の環境学習会や清掃活動等、様々なイベントを開催。
- 地域農業の保全に資する活動について、近隣の活動組織や大学生との意見交換会を実施するとともに、それらの活動の広報を行っている。



幼稚園での環境学習



クリーンキャンペーンの様子

取組の効果

- 活動の広報を行うことで、地域住民へ取組内容を幅広く周知することが出来るようになり、非農業者の参画につながった。
- かいぼりは地元小学生が70人も参加した年もあるなど、地域住民も参画する大きな行事となり、地元の新聞で取り上げられた。
- 他の活動組織と交流会を実施することで各々の組織で抱える課題を共有し、かいぼり等イベントの地域住民の参画拡大やため池管理の効率化を図ることができた。
- 地域の魅力発見を目的に、活動に参加する大学生と地域の将来像について意見交換を実施。活動が新聞等のメディアに取り上げられることで、地域住民の参加意欲が高まった。



大学生との意見交換